

「開かれた学校づくり」から発信



このコーナーでは、各園・学校の取組や様子をお知らせし、地域の学校としての情報発信をしています。地域の皆さんには、様々な取組にご理解とご協力をいただいておりますが、今後とも地域ぐるみで子どもの健全育成に関わってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

神谷中学校

本校は生徒数15名、教職員12名で小規模校の特性を活かした様々な取組を通じ、子どもたちの夢に向かって真摯に歩む日々の取組への支援を行っております。

ここでは、先日行われました生徒総会と起震車体験についてご報告させていただきます。生徒総会では、

「協力・チャレンジ・清潔感のある学校にする」
「元気で、あいさつができる学校にする」

という生徒会活動方針を承認し、具体的な目標として、①「困っているかな」と思う人がいたら声をかけ、自分が困っていたら遠慮せずに助けを求める。こんな関係づくりを土台として、協力・チャレンジのある学校を目指す。②毎日の掃除を時間いっぱい、しっかりと行うことで、気持ちのよい学習環境をつくる。③毎日の登下校やいろいろな地域活動の中で、きちんとした挨拶と返事、笑顔を忘れずに人と接していく。以上の3項目を確認しました。

生徒全員が発言する機会があり、学校への要望事項やこんな学校にしたいという熱い思いがひしひしと伝わってくる総会でした。

生徒会長の小森さんは「今年の生徒総会は充実していたと思います。理由はみんながそれぞれ意見を堂々と発言していたと思います。提案や要求意見の後に、それに関する質問や意見が返ってきていました。みんなが集中して取り組んでいた証拠だと思います。一年間のスローガンである**【夢を持ってあきらめずにチャレンジ】**に沿った学校にしていきたいです」と決意を述べてくれました。



次に、昨年度学校評価項目で、生徒・保護者・教員とも安全安心の学校作りの項目が一番でした。本年度は、安全安心の学校作りの一環として、いの警察署の方を招いての交通安全教室、仁淀消防組合やいの町役場総務課の協力を受けて起震車体験学習を生徒・教職員全員で行いました。

現在、修学旅行の事前学習で阪神淡路大震災のことを学習していることもあり、全員熱心に講話を聞き、起震車体験をしました。近い将来に起きる南海地震に備えるための貴重な体験となり、1年生は「今回の体験で、現在、勉強している阪神・淡路大震災の

時の恐怖感や地震に被災することがどんな思いかをわかりました」「震度7を体験し、すごく揺れて少し緊張しました」と感想を述べてくれました。

今後も、常に学校の主人公である子どもたちに寄り添い、ひたむきな努力や一生懸命さを評価し、時に叱咤激励し、保護者・地域・関係機関・教職員がぬくもりある教育を進めていきます。

